父の背の脂の匂ひ土用浪

野本　京

父は、鯛釣り名人と言われた祖父の長男だった。跡は継がず分家して船方を雇った。後に母が乗船し夫婦舟で出漁した。病を得た後も最晩年まで現役たらんとした。湘子先生は、初老の父への郷愁と哀愁を感じ取って鑑賞して下さり二度目の巻頭句となった。

昭和六十三年作